

編集 後記

8月にはいり立秋とは名ばかりで、今夏も酷暑の日々が続いています。新型コロナウイルス感染症の新たな変異株による感染拡大もあり、熱中症対策と同時に換気、手洗い、必要に応じたマスク着用などの感染症対策を行う工夫が必要とされています。公衆衛生に関わる会員の皆様におかれましては、関連業務に追われる日々をお過ごしのことと存じますが、どうぞご自愛ください。

さて、第71巻第8号では、総説1報、公衆衛生活動1報、資料2報、会員の声が掲載されています。柴野らは、医療的ケア児やその家族に対する専門職らの実践を“協働”という観点からスコーピングレビューの手法を用いてまとめています。こどもにとって当たり前の地域でのくらしや学びが、継続して保障されるには、専門職の協働が必須です。ライフステージごとに協働活動を明らかにした総説は、医療的ケア児支援法施行後の具体的な事業展開の参考になることが期待されます。矢島らは、川越市保健所が特定給食施設指導を通し、事業所勤労者に対する減塩の試みを尿中ナトリウム測定等により評価した公衆衛生活動を報告しています。大企業において健康経営が進む中、事業所への健康づくりに自治体が関与できる参考事例です。清野らは、通いの場の取組をPDCAサイクルに沿って推進・評価するフレームワーク(ACT-RECIPE)を提案しています。国等が一般介護予防事業等をPDCAサイクルに沿って推進することの重要性を指摘している一方、標準化された推進方策が示されていません。具体的なフレームワークの提案により今後、通いの場の取組が一層進むことができると考察しています。矢島らは、お薬手帳と比較した自記式質問紙による服薬情報の妥当性について、複数の疾患を治療している高齢者を対象に分析し、感度が8割を超える薬剤では自記式質問紙による服薬情報の収集は有益であるとまとめています。本資料が、自記式質問紙による服薬情報を使った疫学研究に参照されることが期待されます。

令和6年4月1日より改正気候変動適応法に伴い、熱中症特別警戒アラート発表時には、市町村が定めたクーリングシェルターを開放する方針が示され、現在、全国各地で運用されています。体に厳しい酷暑ですが、助け合い、譲り合い、声のかけ合い、見守りなど、公衆・地域の力を再確認する機会にもなりうると願っています。様々な観点からの論文や実践報告など、積極的にご投稿くださることを期待申し上げます。(植田紀美子)

次号予告(第71巻・第9号)

Original Article

Calculating a Prefecture-Level Well-Being Index in Japan: Applying the framework of the OECD's Better Life IndexYang Myung Si, et al

原著

要支援・要介護リスク評価尺度における追跡9年の要支援・要介護認定リスクに対するカットオフ値の検討.....松崎英章, 他

資料

都道府県がん登録情報を利用した対策型検診の精度管理における感度・特異度の定義.....松坂方士, 他